

# 企業ニュース ユニ・チャーム

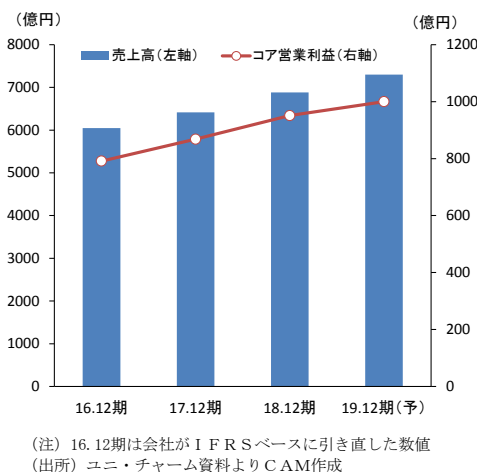
(東証1部: 8113) <http://www.unicharm.co.jp/>

作成者: 荒木晶子

## 紙おむつなどの衛生用品大手

1961年創業。ベビー・大人用紙おむつや、生理用品などのフェミニンケア商品を取り扱う衛生用品メーカー。18.12期の事業別売上高構成比は、紙おむつやフェミニンケア商品などを含むパーソナルケア87%、ペット用品のペットケア12%、その他1%。2020年度を最終年度とする中期経営計画では、海外展開の加速による飛躍的な成長を目指している。18.12期の海外売上高構成比は59.8%となった。アジアを中心に販路拡大に取り組み、同計画期間においての海外売上高構成比は緩やかに上昇している。最終年度の数値目標として、売上高8,000億円、コア営業利益(売上総利益から販管費を控除した利益)1,200億円を掲げている。

◇売上高とコア営業利益の推移



## 18.12期は原材料高など費用増を吸収し増益

18.12期の連結業績は、売上高が6,883億円、前期比7%増、コア営業利益が951億円、同10%増。計画に対して、売上高で13億円、コア営業利益で11億円上振れて着地した。日本は前期比5%増収、同2%減益と苦戦したが、海外が同9%増収、同34%増益となり、業績をけん引した。費用面では、原材料価格が同73億円増、物流費が同46億円増となったが、マーケティング投資の効果による販売数量増や、高付加価値・高単価商品の増加による商品構成の改善などで吸収した。

19.12期の通期会社計画は、売上高が7,300億円、前期比6%増、コア営業利益が1,000億円、同5%増。日本は同5~10%増収、収益性は悪化すると見込む一方、アジアは同5~10%増収、収益性は改善すると予想している。費用面では、原材料価格の変動影響が同65億円増、デジタルへの取り組み強化費用が同40億円増などの他、人件費や物流費の増加を織り込んでいる。19.12期の1株当たり年間配当金は28円とし、18期連続の増配を計画している。

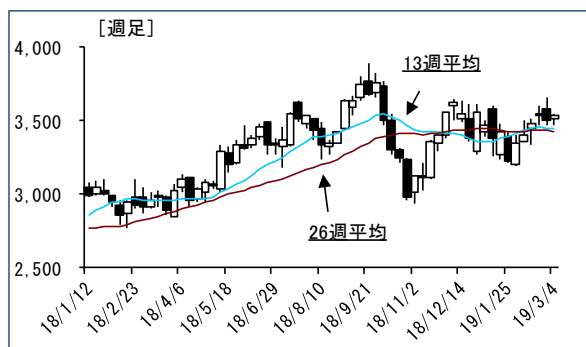
## 【株価動向・投資判断】

堅調な業績を背景に、株価は高値圏で推移している。アジアでは紙おむつに続き、フェミニンケア商品の認知度が向上している。フェミニンケアの海外展開加速により、さらなる業績成長が期待できよう。

### <8113 ユニチャーム 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	コア営業利益	税引前当期利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.12	641,647 ( 6)	86,838 ( 10)	92,926 ( 23)	52,772 ( 12)	89.9	20.00
18.12	688,290 ( 7)	95,107 ( 10)	91,561 ( ▲1)	61,353 ( 16)	103.7	24.00
19.12 予	730,000 ( 6)	100,000 ( 5)	96,500 ( 5)	63,500 ( 4)	106.5	28.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2019/3/4)	3,540 円
昨年来高値(高値日)	3,892 円(18/9/19)
同 安値(安値日)	2,767.5 円(18/2/15)
予想 P E R (19.12 予)	33.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	739.9 円
P B R	4.78 倍
予想配当利回り	0.79 %
(1株当たり配当金28.00円)	
R O E (18.12)	14.8 %
発行済み株式数	62,083 万株